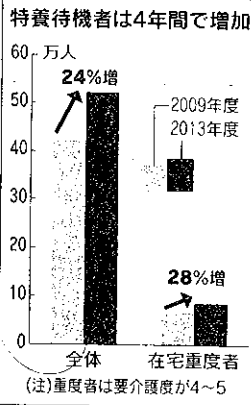


特養ホーム待機52万人

13年度 4年間で10万人増



厚生労働省は25日、特別養護老人ホーム(特養)の調査結果を発表した。前年度に比べて約10万人、24%増え、2013年度は52万人に上るとの調査結果を発表した。前回調査の09年度から4年間で約10万人、24%増えるが、在宅介護などの受け皿整備も急がれる。

特養ホームは全国に約7800。利用者にとっては食事や入浴、排せつを含め、日常生活全般で手厚い世話を受けられる。負担額が少なく、済む利点がある。半面、運営費の大半を介護保険で

賄い、入所者1人当たりの給付額は月30万円近い。保険財政には重荷だ。特養ホームへの入所を待つ高齢者は09年度は42万1000人だった。自治体は特養整備を進め、入所者数の枠は09年時点から7万4800人分広がっているが、それ以上の「待機者」が増えた格好だ。入所優先度がより高いとする在宅で重度(要介護4・5)の待機者は、09年度比28%増の8万6千人だった。

待機者には「症状が軽いのに早めに申し込む人」もいる(高齢者支援課)との見方がある。厚労省は特養への入所を原則「要介護3」以上に絞る。介護保険法改正案を国会に提出しており、15年度施行を目指している。特養ホームに入れない待機者の受け皿となるのが、在宅介護。自宅で暮らすつつデイサービスやホームヘルパーを利用したり、配食や見守りなど一定のサービスが付く高齢者向け集合住宅へ入居したりするのを見込む。

高年齢者住宅を含めた「有料老人ホーム」の数が、在宅介護。自宅で暮らすつつデイサービスやホームヘルパーを利用したり、配食や見守りなど一定のサービスが付く高齢者向け集合住宅へ入居したりするのを見込む。

高年齢者住宅を含めた「有料老人ホーム」の数が、在宅介護。自宅で暮らすつつデイサービスやホームヘルパーを利用したり、配食や見守りなど一定のサービスが付く高齢者向け集合住宅へ入居したりするのを見込む。

高年齢者住宅を含めた「有料老人ホーム」の数が、在宅介護。自宅で暮らすつつデイサービスやホームヘルパーを利用したり、配食や見守りなど一定のサービスが付く高齢者向け集合住宅へ入居したりするのを見込む。

高年齢者住宅を含めた「有料老人ホーム」の数が、在宅介護。自宅で暮らすつつデイサービスやホームヘルパーを利用したり、配食や見守りなど一定のサービスが付く高齢者向け集合住宅へ入居したりするのを見込む。

長期入院是正に照準

在宅医療 受け皿欠かせず

再入院厳格化

厚生労働省が再入院ルールを厳格化する。在宅医療を受け皿を減らすことと、病院中心から在宅中心にシフトを進める一環だ。入院を繰り返す患者が長期間、同じ病院にとま

心の医療提供体制へのシフトを進める一環だ。入院を繰り返す患者が長期間、同じ病院にとま

心の医療提供体制へのシフトを進める一環だ。入院を繰り返す患者が長期間、同じ病院にとま

心の医療提供体制へのシフトを進める一環だ。入院を繰り返す患者が長期間、同じ病院にとま

心の医療提供体制へのシフトを進める一環だ。入院を繰り返す患者が長期間、同じ病院にとま

心の医療提供体制へのシフトを進める一環だ。入院を繰り返す患者が長期間、同じ病院にとま

解説

厚生労働省が再入院ルールを厳格化する。在宅医療を受け皿を減らすことと、病院中心から在宅中心にシフトを進める一環だ。入院を繰り返す患者が長期間、同じ病院にとま

心の医療提供体制へのシフトを進める一環だ。入院を繰り返す患者が長期間、同じ病院にとま

心の医療提供体制へのシフトを進める一環だ。入院を繰り返す患者が長期間、同じ病院にとま

心の医療提供体制へのシフトを進める一環だ。入院を繰り返す患者が長期間、同じ病院にとま

心の医療提供体制へのシフトを進める一環だ。入院を繰り返す患者が長期間、同じ病院にとま

心の医療提供体制へのシフトを進める一環だ。入院を繰り返す患者が長期間、同じ病院にとま

の診療報酬改定には「かかりつけ医(主治医)」を増やす方策も盛り込まれている。身近な診療所や中小病院の医師が必要時に患者宅を訪れる仕組み。報酬を厚くした。大病院頼みをできる限り減らし、本当に必要とされた場合に入院を指示する役割がかりつけ医には求められるが、どんな病気でも診察できる総合的な能力が必要だ。かかりつけ医が役割を十分に発揮し、病院医療と在宅医療のバランスをとれるかどうかカギを握る。団塊の世代が75歳以上になり、医療の需要がさらに増える25年まで、さほど時間はない。